元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐　勉　　2024年02月19日　第1155号「週刊五十嵐レポート」

中堅企業とは

2月14日、17日付日経新聞では「中堅企業」の記事があった。

日本政府は、従業員2000人以下の企業を「中堅企業」と位置づける産業競争強化法の改正案を閣議決定した。成長意欲の高い企業を重点的に支援し、日本経済の底上げにつなげる。

背景にあるのは、従来の大企業と中小企業を2つに区分する方法と、手厚い中小企業保護策。中小企業は全国に336万社ほど、全企業に占める割合は99%を超える。コロナ禍など危機時には中小企業は大企業より手厚い支援を受けられた。

政府の描く企業の成長戦略は、中小企業の多くを底上げすることから、突出した中堅企業による牽引に切り替えた。政策のポイントの一つは、価格の値上げや賃上げ等ができない、人材難（人の採用ができない）等の企業（主に中小企業）は淘汰されていくと想定している。二つ目は、そのような企業の淘汰を「前向きな新陳代謝」と捉え、消えてしまう事業や人材の受け皿として「中堅企業」を受け皿として位置づける。

賃上げや投資に積極的な企業を「特定中堅企業」とする。投資やM&Aを促進する税優遇を受けられる。業種別の平均より1. 賃金水準が高い。2. 従業員が増えている。3. 設備投資や研究開発など成長投資をしている等が要件。

ある中小製造業の話。資材の仕入先数社が廃業、事業売却された。M&Aの譲受先は今後その資材を扱わないとのこと。新たに仕入先を探す必要になった。代替品を仕入れることができても価格は今より高くなる。または仕入れが出来なくなるリスクもある。この中小製造業者が資金力があり、経営マネジメント力があれば、廃業する企業や事業を売却する企業の事業を引きつくことができた。より強固な事業基盤が築けることができたかもしれない。

今後、これが中小企業と中堅企業の「差」になっていくかもしれない。ある中小企業社長のコメント、「中小企業を中堅企業に選別してあとは潰れてくださいという国の政策。10年後にはそうなるだろうなと思った」。

さあ、力をつけていこう！

ちょっと気になる出来事

2023年名目国内総生産（GDP）で日本はドイツに抜かれ、4位になった。2月16日付朝日新聞、「ドイツ『稼ぐ力』で浮上」という記事。

ドイツの強みは付加価値の高い製品を国内で造り、海外で売る「稼ぐ力」にある。中小・中堅企業で高い世界シェアを持つ企業が少なくない。

ニッチな市場で高い世界シェアを持つ中堅・中小企業は、ドイツで「隠れたチャンピオン」と呼ぶ。こうした企業はドイツでは少なくとも1500社ある。非上場の家族経営の企業が多く、短期的な利益に左右されず、経営者が長期的な戦略を立てている。一方、日本では該当する企業は300社。

日独とも企業のうち中小企業が99%占める。中小製造業1社当たりの輸出額でドイツは日本の2.8倍。

東洋大学と大同生命の共同研究によると、「ドイツの中小企業は、自社の強みをしっかり高め、自社の強みを評価してくれる顧客をしっかり獲得し、適正な利益水準を確保する。そのために安易な安売りをせず、海外を含め顧客を開拓し、付加価値を高めていくために革新性を重視する」。

ドイツは日本の人口の2/3。それでGDPは抜かれた。企業の99%は中小企業、日本と同じ。ということは、中小企業の実力差がGDPの差。言い訳できないね。

一口メモ
知識

時を畏（おそ）れる

故に乾乾（けんけん）す。その時に因りて惕（おそ）る。

終日勤勉に努力する。いかなる時も畏（おそ）れ謹むことを忘れない。
無駄に時が過ぎるのを惜しみ、今、何をすべきか、その時々に徹して、
今という時を活かしきることが大切である。

過ぎてしまった時は二度と戻ってこない。
一瞬たりとも無駄にしないために大切なのが、
時を畏れるという姿勢である。

「易経一日一言」（致知出版/竹村亜希子）より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日・水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　info@igarashireport.com